

ピックアップ!【優良受注企業紹介】  
ビジネスパートナー

鑄物部品の一貫生産メーカーとして、  
かんぱん方式にも対応。  
産学官の連携で、技術創出にも意欲的。

## 岩手鑄機工業株式会社

### 一御社の沿革などは、

“キューポラの町”で知られる水沢市にある当社の歩みは、かれこれ70年になろうとしています。

昭和10年2月、工業組合法によって設立された岩手南部鑄造工業組合が始まりです。その後、昭和16年9月に有限会社の岩手鑄機工業協会に改組、さらに昭和24年2月、岩手鑄機工業株式会社に組織変更して現在に至っています。

昭和45年の岩手国体で用いられた炬火炉は、当社が手がけました。また昭和59年には通産省「地域フロンティア開発事業」に参加して“キューポラ溶解における超薄肉球状黒鉛鑄鉄”の製造技術を開発するのに成功しています。さらに平成8年度“無公害オー

ステンパ熱処理装置”の開発で、(財)日本鑄造工学会技術賞を受けました。創業から、鑄鉄を素材に多種多様なモノづくりに励んで産業や暮らしの進歩に貢献してきたという秘めたる自負があります。と同時に、岩手を代表する地場産業に数えられる鑄物工業の発展、その一翼を担ってきました。

### 一現在の経営環境は、

マクロ的な要因である原材料の市況は注視しなければならぬ情勢です。中国市場で需要が急伸しており、その余波で国内の品薄感が強まってきました。原材料コストの上昇分を価格に転嫁するわけにもいかないので、当社を含めて各社とも、どのようにしてコストを吸収するか、また安定的な調達

を図るかが経営課題の一つとして浮上しています。この点に関しては商社など関係方面との連絡を密に取り、的確な対応に努めています。

こんな中であって、取引先ごとに需要期のピークが異なるものの、おおむね手堅く、底上げ基調で受注が推移しているという感触です。

### 一主な生産品目は、

製品は南部鉄器(工芸品)そして産業資材に大別されますが当社は後者の供給に専念すべく経営資源を集中させています。品目別ではコンプレッサー用部品が60%、農機具部品が10%、その他の産業機械部品が30%という割合です。具体的にはコンプレッサー製品の主力アイテムである

プーリー・クランクケース・シリンダーはじめ、産業機械部品としては、ポンプ用ケーシング・トラクター用ハウジング・梱包機械用フレーム、さらに産業機械に搭載するハウジングなどです。したがって取引先の大半は、さまざまな分野の産業機械メーカーです。

また、オーステンパ球状黒鉛鑄鉄という素材を用いて鑄物刃物(一般向けの包丁やナイフ)あるいはトラクターなど農業用機械のアタッチメント(耕作用のツメなど)を造っています。この素材によるモノづくりは、新しく優れた技術要素を実践に移すという意味で価値がありますので、今後需要が増加していくことを期待しています。

### 一セールスポイントは、

鑄造から機械加工・組み立て、そして検査に至る一貫システムを持つ点が安定した受注、ひいては取引先からの好評価につながっています。さまざまな技術要素が盛り込まれたオーダーを一括して受けられる。これは大きな強みだと思います。

例えば、試作品の図面をお預かりしてプロトタイプを作製し、その後に細部の調整や改良を加えて本格的な生産を開始するシステムを取っています。鑄造部門と機械加工部門がスムーズに連携できる作業環境を整えるとともに、現場の一人ひとりの意識を同じ方向に向け、オールマイティに工程に関わるように努めています。こうして、

当社のブランド的な価値を高めているのです。

当社の月当たりの生産量は、ほぼ250トンペースで推移しています。これは、月産数千トンクラスの同業他社に比べると、小さいほうの部類です。しかし、近年とみに顕著になっている多品種少量・高精度といったニーズへの的確な対応を通して業界での存在感を増していく決意です。

### 一受注力をさらに向上させるための取り組みなどは、

6年ほど前から、日立製作所のコンプレッサー生産で「かんぱん方式」を導入しています。これは、「必要な時に、必要な分だけ」という考えに基づき、スピーディーかつ効率的な生産シフトを構築するもので、現在相当短納期化が図られています。また、岩手県工業技術センターとの連携は、人材育成と技術創出の両面から実を結びつつあります。新しい素材の活用も含め、次世代に向けた製品開発を進めてきました。研修と研究に派遣される技術部のスタッフにとっては、得難い体験です。

また、羽田(はだ)地区には、水沢市鑄物技術交流センターがありますが、そこで行っている「いわて鑄造研究会」の活動にも積極的に参加しています。例えば岩手大学工学部の協力を得て開催される講習会など、産学官の結び付きが当社のモノづくりへの意欲に刺激となっています。



清原章社長

### 企業概要

設立: 昭和16年9月  
代表者: 清原 章  
所在地: 水沢市字桜屋敷西97-1  
電話番号: 0197-24-2121  
FAX: 0197-23-2816  
URL: <http://www.joho-iwate.or.jp/homepage/iwtchuki.html>  
E-mail: [chuuki21@olive.ocn.ne.jp](mailto:chuuki21@olive.ocn.ne.jp)  
資本金: 3,750万円  
従業員数: 67名

事業内容: 普通鑄鉄・ダクタイル鑄鉄・オーステンパ球状黒鉛鑄鉄(ADI)を用いた産業機械用パーツの鑄造・機械加工・組み立て、ADI刃物の製造など

主要取引先: (株)日立製作所・福島製鋼(株)・山田機械工業(株)・大生工業(株)・三菱農機(株)・東京管材(株)・北村バルブ製造(株)・宮腰精機(株)・ピーエフ工業(株)・(株)バン岩手工場

### 主要設備:

鑄造部門 / 溶解炉・高圧自動造型機・シェルモールド・研掃機・熱処理炉・サンドブラスト、各種  
機械加工部門 / NC旋盤・マシニングセンター・プーリー専用機・フライス盤・ボール盤・旋盤、各種  
検査部門 / 炉前管理機器・携帯形放射温度計・溶湯成分迅速分析装置・黒鉛球状化率判定装置・倒立型金属顕微鏡・試料片研磨機・ブリネル硬度計・キングブリネル硬度計・3,000kg・ロックウェル硬度計

